

一 般 質 問 通 告 表

令和7年第3回始良市議会定例会（9月3日）

4. 有川 洋美	1. 霧島・始良豪雨災害において被災した住宅復旧と生活再建について 2. 霧島・始良豪雨災害において他市町村との連携について	(1) 本市における床上浸水・床下浸水の被害世帯数と被災地域の状況を、地区別に示せ。また、土砂災害や倒木など、その他の要因により住宅復旧の必要な世帯数と地域についても示せ。 (2) 床上床下浸水被害の家屋等への消毒作業を市が実施するとのことであるが、泥やごみの除去・洗浄・乾燥を被災者自身で行うこととなっている。一部、ボランティアの支援を受けることのできる作業もあるが、床下の泥の除去や乾燥の手順はわかりにくく、特に高齢者、障害者、女性には困難であり、市の支援が必要と考えるがどうか。 (3) 住宅復旧や生活再建を進めるために、市が設置する相談窓口や関係機関（医療・福祉・心のケア・仮住まいの環境改善等）との連携体制を含む支援体制について示せ。 (4) 被災者への支援制度や手続きに関する情報を、市がどのように周知・提供するのか、具体的な方法を示せ。 豪雨災害が起き、本市だけではどうても対応が難しい状況であったと考える。被災していない他市町村へ応援要請を行ったのか。また、申し出はあったのか。説明を求める。	市 長
5. 新福 愛子	1. 危機管理、防災・減災対策の強化について	大規模化・複雑多様化する自然災害への対応において、今回の大雨災害で多くの市民が被害や苦難に直面したことをふまえ、防災・減災の取組を実践的に見直す必要性を痛感している。今後の危機管理、防災・減災対策の強化について以下	市 長 教育長

		を問う。 (1) 内水・冠水対策計画について発災前と発災後では、どのような見直しを検討されていくか。 (2) 市民の「自助・共助」の防災思想・意識の普及・啓発に向けて、どのような取組を検討していく考えか。 (3) 流域全体のあらゆる関係者が協働して浸水対策を行う「流水治水」が求められている。雨水タンクは雑用水確保のために家庭で取り組むことができる浸水対策といわれ、鹿児島市・霧島市・北九州市では「雨水タンク助成制度」を設けている。本市でも同助成制度に取り組む考えはないか。 (4) 中山間地域の一部では、災害発生時に光ファイバーの未整備により情報収集や避難行動に支障をきたす可能性がある。現段階での市内の未整備地域と今後の対策を問う。 (5) 北山地域では県道などの陥没や土砂崩れが発生し、復旧のめども立っていない。緊急・救急車両等が通れない状況もあるため、住民の生命・財産を守るためにも早急な復旧が望まれているが、市としての対策を問う。 (6) 少年期からの「防災教育」に対するジュニアリーダーや防災ボランティアなどの育成強化も期待される。市としての取組を問う。	
6. 堀 広子	1. 災害対策について	線状降水帯が発生し、8月8日深夜からの記録的な大雨によって、各地で多くの家屋が浸水被害を受けた。 被害の状況も、人的被害、家屋、断水、道路、河川、農業関係だけでなく、水源地の導水管の破損など、多くの地域が断水となったが、行政の迅速な対応で	市 長

		19日には解消された。 (1) 本市が発表した20日現在での被害状況は全壊1件、床上浸水174件、床下浸水236件との報告。浸水被害対策として住家被害について、災害救助法の応急修理と被災者生活再建支援制度がある。 それぞれの内容と本市の対象件数について問う。 (2) 災害による国民健康保険税、後期高齢者医療保険料、介護保険料の減免制度は、その1つに納税義務者やその世帯の被保険者が所有する住宅や家財にその価格の30%以上に相当する損害を受けた場合対象になる。そこで以下について問う。 ①前年の所得金額ごとの減免の割合について。 ②現在の対象件数について。 ③災害による減免制度について市民への周知はどのように行われているのか。	
--	--	---	--